

「クールブロックペイブ®」認定制度が 新しくなりました

〈 2019年4月 〉

JIPEA 一般社団法人インターロッキングブロック舗装技術協会

Japan Interlocking Block Pavement Engineering Association



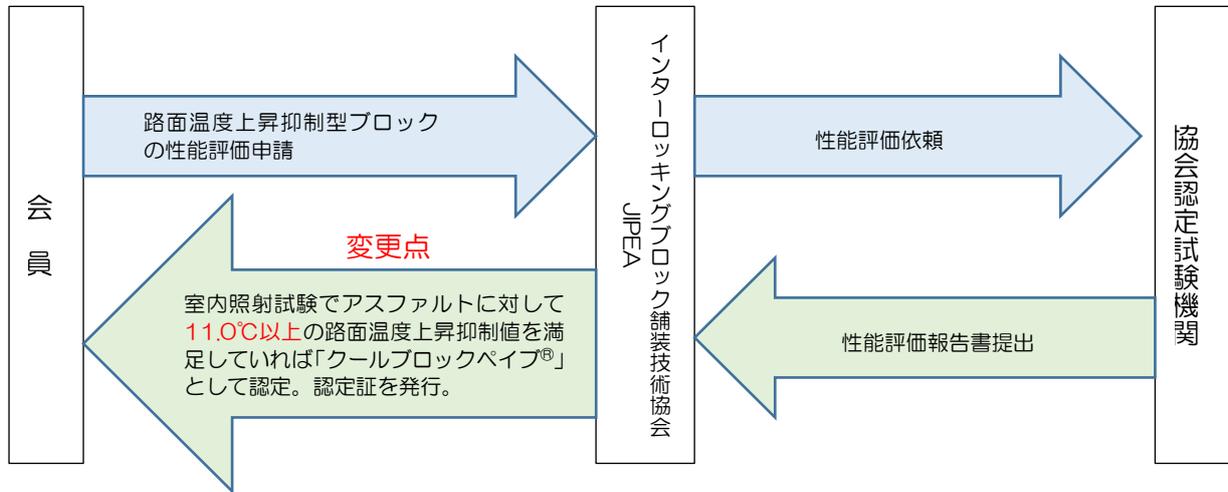
「クールブロックペイブ®」（登録商標）の室内照射試験における認定基準は、これまでアスファルト表面温度に対して 8.0℃以上（アスファルト 60℃時）でした。今後は、11.0℃以上に変更されます。

また、室内照射試験の方法が、より実路面温度の再現性が高い方法に変更されます。

2020年東京オリンピック・パラリンピックは真夏に開催予定です。
協会ではヒートアイランドの抑制に向けていち早くユーザーの皆様の
信頼を得るべく、より良い製品の提供に努めます。

■認定制度の認定基準の変更点

室内照射試験における路面温度上昇抑制値がこれまでの8.0℃以上から11.0℃以上に変更されます。これにより、ユーザーの皆様により高い路面温度上昇抑制性能を有する製品をお届けします。



■室内照射試験方法の変更点

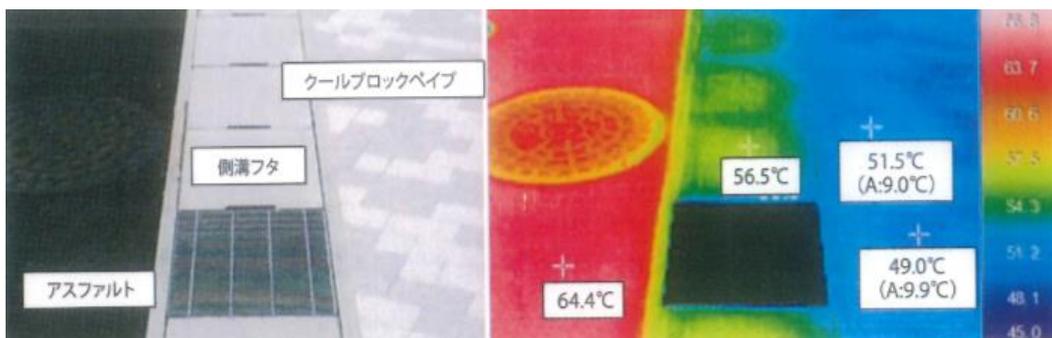
これまで性能評価を行うインターロッキングブロックが保水性インターロッキングブロックの品質規格（保水量 0.15g/cm³ 以上、吸上げ率 70%以上）を満足する場合は、右表に示す表乾試験法（旧名 B 法）を用いていました。満足しない場合には供試体を絶乾状態にする絶乾試験法（旧名 A 法）が用いられていました。

近年、クールブロックパイプ認定製品の実路での路面温度の測定データの蓄積され、それを分析した結果、保水性インターロッキングブロックの品質規格を満足するしないに係わらず、表乾試験法を用いた室内照射試験による路面温度上昇抑制値の方が、実路での降雨後 5 日程度までの路面温度上昇抑制値を高い精度で再現できることが分かりました。このため、**絶乾試験法（旧名 A 法）を廃止し、表乾試験法（旧名 B 法）のみの測定に変更されます。**これにより、ユーザーの皆様により実路面に近い路面温度上昇抑制値をご提示いたします。

| | |
|-----------|----------------------------------------------------------------|
| 供試体数 | 3 個 1 組 |
| 供試体形状 | φ100×60mm または φ100×80mm |
| 比較供試体 | 密粒度アスファルトコンクリート |
| 照射ランプ | キセノンランプ（照射量：850W/m ² ） またはキセノンランプと相関性を確認したビームランプ |
| ランプ高さ | 比較供試体の表面温度が 3 時間で 60℃±1℃となる高さ |
| 試験時の温度・湿度 | 30℃±1℃、50±5 RH%（恒温・恒湿） |
| 供試体の条件 | 30℃±1℃の水中にて 1 時間浸水養生し、試験直前に供試体表面をふき取り表乾状態として試験に供する。 |
| 測定時間・頻度 | 照射時間は 3 時間とし、10 分間隔で表面温度を測定する |

■クールブロックパイプの実路における路面温度測定事例

測定日：8月14日 天候晴天



- クールブロックパイプは、アスファルト舗装より 12.9℃～15.4℃も路面温度が低い測定結果が得られました。